

六ヶ所再処理工場が動けば

青森県産の米やニンニク等から放射線が出ると青森県が公認

安全でおいしい青森県産の食材を食べ続けたい

だから青森県知事は

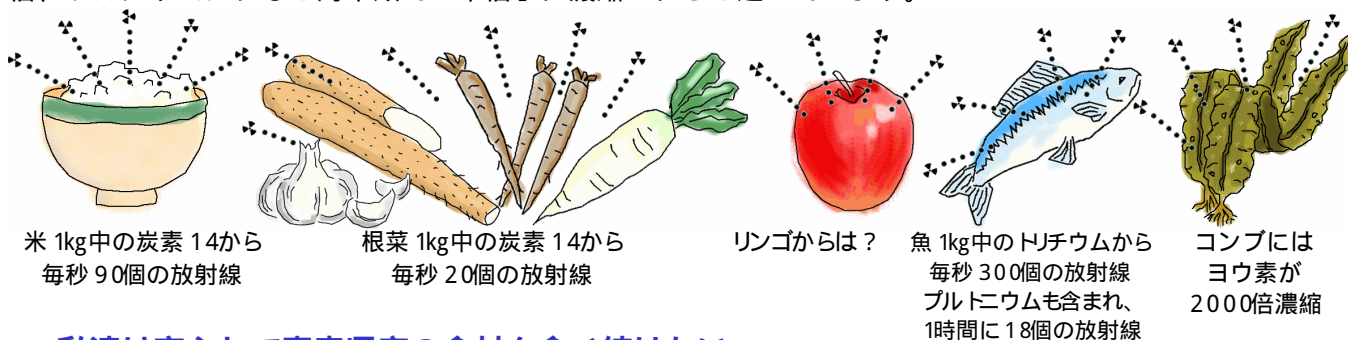
再処理工場の試運転を認めないでください



青森県産の農作物から放射線が出るようになることを県が認めました

青森県は2月7日、資料「六ヶ所再処理工場の操業と線量評価について」を公表しました。そこでは、六ヶ所再処理工場が動き出せば、青森県産の農作物や魚介類に放射能が含まれ、放射線が出ると認めています。例えば、お米1kg中の放射能・炭素14から、毎秒90個の放射線が余分に出ることになります。1分間には5400個、1時間に32万4千個の放射線がでます。炭素14の半減期（放射能の強さが半分になる期間）は約5700年です。また、青森県でとれる魚には自然界には存在しないプルトニウムまで含まれることになります。

青森県が公表した資料では、放射能の年ごとの蓄積や、ヨウ素の経口摂取は無視されています。また、再処理工場を運転する日本原燃(株)は、2月22日の青森県議会全員協議会で「ヨウ素は海水濃度に対して魚で30倍、ワカメやコンブなど海藻類で2千倍」に濃縮されると述べています。



私達は安心して青森県産の食材を食べ続けたい

青森県のリンゴ、長いも、ニンニクは全国一の生産高をほこり、特にニンニクは約75%のシェアを占めています。ゴボウやだいこん、さくらんぼも多く生産され、これらは全国で販売され、食卓にあがっています。

青森県では「決め手は、青森県産」というキャッチフレーズを2月に決め、知事自らが「攻めの農林水産業」を提唱しています。青森県はこれまで、食品のトレーサビリティ等も行い、「安全で安心」な食材を供給することに力を注いでいます。しかし、放射能が入っても「決め手」になるのでしょうか。

農業者の皆さんは、厳しい開拓時代から大変な苦労の上に、今日の農業を築いてこられました。我が子のように手塩にかけて育てた農作物に放射能が入ることは耐えられないと話されています。

安全な食材を食べ続けるためにも、青森の農業を守るためにも、試運転に反対しましょう

六ヶ所再処理工場では、3月にも試運転（アクティブ試験）が行われようとしています。試運転といっても、原子力発電所の使用済み核燃料を使った事実上の本格運転と同じです。試運転が実施されれば、大気や海に膨大な放射能が放出されます。それによって農作物や魚介類が放射能に汚染されてしまうのです。

この試運転を認めるかどうかの最終的な事実上の決定権は青森県にあります。青森県が試運転のための安全協定を結ばなければ、アクティブ試験は実施できないのです。

緊急です。あなたの気持ちを青森県知事に伝えてください

美浜の会のホームページからメッセージを送れます

パソコンからは <http://www.jca.apc.org/mihama/reprocess/mail.htm>

携帯電話からは <http://www.jca.apc.org/mihama/i/i.htm>

QRコード対応の携帯からは



青森県庁：〒030-8570 青森市長島一丁目1-1

青森県総務部秘書課 電話 017-722-2054 / FAX 017-722-6700 Eメール hisyo@pref.aomori.lg.jp

知事宛メールは終了しました

再処理工場の通常運転で、日常的に大気にも海にも放射能を放出

1年間で大気や海に、原発重大事故時のおよそ20倍のプルトニウムを放出
海への放射能放出には濃度規制がない

再処理工場が本格稼働すれば、大気中に日常的に放射能が放出されます。青森県内の人々は、生まれたばかりの赤ん坊のときから、プルトニウムなどの放射能入りの空気を毎日吸うこととなります。

また、海洋にも大量の放射能が放出されます。海への放射能放出については濃度規制がありません。年間に放出する総量を規制しているだけです。濃度規制を行えば、再処理工場が運転できなくなるためです。「広い海で薄まるから大丈夫」と言いますが、例えばプルトニウムの半減期は2万4千年です。半永久的に海は汚染されてしまいます。それほどまでに大量の放射能を放出しなければ運転できないのが再処理工場なのです。

政府公認で、放射能という毒物をまき散らす再処理工場の運転が行われようとしているのです。

除去装置が実用化できないから大気中に放出

クリプトン85やトリチウムは全量が環境中に放出されます。日本原燃は、それらを除去したり固定化する技術を実用化する見通しが立たないためだと言います。毒物の除去技術が実用化できないからすべて放出する、ということが許されるのでしょうか。日本原燃は「150メートルの高い排気筒から出すので、拡散し薄まるから大丈夫」と言っています。薄めても放射能の毒性は無くなりません。

六ヶ所再処理工場を1年間運転すれば、放出されるクリプトン85の放射能量は、炉心が溶融したスリーマイル島原発事故時に放出された全希ガスの3.6倍にも相当します。

「微量だから人体に影響はない」の？

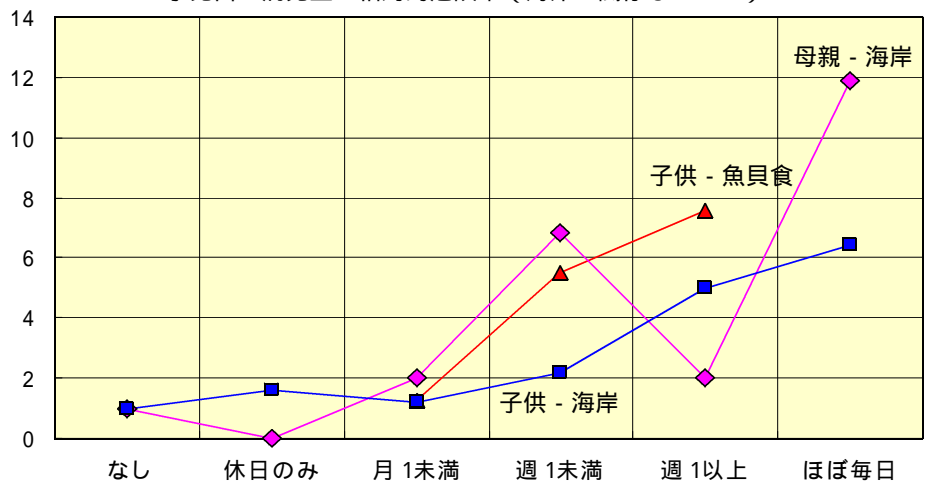
どんなに微量でも人体に影響を及ぼします

日本原燃や国、青森県は、放射線は微量だから人体への影響はないと言っています。本当でしょうか。すぐに影響が出なくても、長期にわたって放射能入りの米や野菜を食べ続けても影響がないのでしょうか。トリチウム

は体内のタンパク質や脂肪と結合し、染色体を傷つけます。炭素14も同様に全身に取り込まれ、細胞を傷つけます。クリプトン85は、皮膚ガン等を引き起こします。

イギリス、フランスの再処理工場周辺では小児白血病の増加等が報告されています（右図参照）。また昨年、全米科学アカデミーが出した報告書（BEIR VII）では、どんなに微量の放射能・放射線でも人体に影響を及ぼすことを改めて認めています。

フランスのラ・アーグ再処理工場周辺での海岸汚染による小児白血病発生の相対的危険率（海岸と関係なし = 1）



母親 - 海岸：母親が海岸に行った度合いに応じてその子供に白血病が生じる危険度

子供 - 海岸：子供が海岸に行った度合いに応じて生じる白血病の危険度

子供 - 魚貝食：子供が魚や貝を食べる度合いに応じて生じる白血病の危険度

Dominique Pobel & Jean-Francois Viel BMJ 314 1997年

美浜・大飯・高浜原発に反対する大阪の会（美浜の会）

〒530-0047 大阪市北区西天満4-3-3 星光ビル3階

TEL:06-6367-6580 FAX:06-6367-6581 ホームページ <http://www.jca.apc.org/mihama> 発行 2006.2